

## Y20a 津山高専の公開講座を活用した天文教育

佐々井祐二（津山高専）

津山高専では、世界天文年 2009 を契機として小中学生対象の公開講座「天体観測会—君も未来のガリレオだ！—」を年 4、5 回開催しており、地域住民から好評である。本年も 4 月から補助学生のトレーニングを行った上で、5 月 29 日に第 1 回「口径 35cm 望遠鏡で木星を見よう」を実施し、47 名の参加者があった。また、津山市公民館から「天体観測教室」を依頼されることもあり、本年も 8 月に実施予定である。天体観測会では、発表者の研究室の口径 35cm シュミットカセグレン式望遠鏡などを活用している。本校 3 年の自発的学習科目チャレンジゼミナール生などを望遠鏡操作担当の補助学生としており、公開講座を通じた相互教育による教育体験が補助学生の天文基礎知識の習得にも繋がっている。

本発表では、教員と補助学生、さらに本校学術・社会連携推進室がチームを組み実施 9 年目に入った公開講座の天体観測会について、その活動内容、アンケートを通じた受講者および学生の教育効果について報告する。

部活動でなく、授業の受講学生は毎年度メンバーが交代するので 4 月にはリセットの繰り返しであった。津山高専では平成 28 年度に 4 工学科と一般科目を総合理工学科に統合した。既存の工学科を発展させる 3 工学系の他に、全国高専初の理学系である先進科学系を設け、学生の学年進行に伴い天文教育の継続性が生まれようとしている。天体の単なる観望では学生の興味も長続きしない。学生が主体的に行った校内向け天体観測会の他に、今後注力したい食連星の観測やその解析についても紹介する。岡山県北部地域の科学技術教育センターを目指したい本校の立ち位置についても考えてみたい。